

子どものあそび環境 (2)

三 笠 友紀恵
金 築 優 子
久 本 信 子

1. 目的

子どもたちが戸外で喜々としてあそんでいる姿を見るのは楽しいものである。何か相談しているかと思えば、急に喧嘩のような状況になったり本当に生き生きとしている。この戸外であそぶことが発育・発達に欠くことができないことは周知の事実である。そこで、戸外であそぶ効用はというと、大きな集団であそべること、活発なあそびが展開できる等があげられるであろう。そこは、必ずあそび仲間が存在し、社会的ルールを知らず知らずに学ぶことができる場となっている。また、活発に動くことによって身体の順調な発達も促される。あそびが成長期に果たす役割は数限りなくあるが、本研究では、この戸外あそびについて調査を実施した。その内容は戸外あそびに直接関連があると思われる環境〈あそび場所、あそび仲間、あそび時間等〉、と間接的に関連があると思われる環境〈テレビ視聴、習いごと、身体の問題、家族構成、起床・就寝時間等〉、である。これらを「性」「年齢」「地域」「活動的なあそびの好き嫌いの度合い」との有機的な関係进行分析することによって、環境とあそびの関わりを明らかにしたい。

2. 調査方法

| | |
|------|---|
| 調査期日 | 1996年7月中旬 |
| 調査対象 | 3歳～6歳の幼稚園児 1053名 (男-518名、女-535名) |
| 調査方法 | 質問紙法：幼稚園を經由して、園児の保護者に回答を依頼 (回収率82%) |
| 調査地域 | A. 都市中心部地域-商業、住宅混在地域 407名 (男-187名、女-220名) B. 住宅地域-大都市の通勤圏にある 中小都市の住宅地域 325名 (男-170名、女-155名) C. 中小都市周辺部地域-田畑が残っている地域321名 (男-161名、女-160名) 以下A地域、B地域、C地域、と記述する |
| 調査内容 | 表-1 ¹⁾ |

表-1 調査内容

| | 質問項目 | 選 択 肢 | | 質問項目 | 選 択 肢 | | | | | | | | | | |
|---|--------------------|---|---|------------------------------|--|--------------------|---|---|--|------------------|--|---|-------------------------|---------|---|
| ① | 生年月日 | 自由記述 | ⑫ | 戸外あそびの 仲間の数 | 1. 1人であそぶことが多い 2. 2～3人であそぶことが多い 3. 4～5人であそぶことが多い 4. 6人以上であそぶことが多い 5. その他() | | | | | | | | | | |
| ② | 性 別 | | | | ⑬ | 戸外でのあそび 仲間の性別 | 1. 同性とあそぶことが多い 2. 異性とあそぶことが多い 3. 同性・異性混合であそぶことが多い | | | | | | | | |
| ③ | 家族構成 | | | | | | ⑭ | 戸外あそびの 仲間の状況 | 1. いつもあそぶ仲間がだいたい決まっている 2. いつもあそぶ仲間はあまり決まっていない | | | | | | |
| ④ | 起床時間 | | | | | | | | ⑮ | 戸外あそびからの 帰宅時間 | 1. 4時30分頃 2. 5時頃 3. 5時30分頃 4. 6時頃 5. 6時30分頃 6. その他() | | | | |
| ⑤ | 就寝時間 | | | | | | | | | | ⑯ | テレビ視聴制限の 有無 | 1. 制限している 2. 制限していない | | |
| ⑥ | 活動的なあそびに ついて | 1. 活動的なあそびを好む 2. 活動的なあそびをまあまあ好む 3. 活動的なあそびの好みは普通 4. 活動的なあそびはあまり好まない 5. 活動的なあそびは嫌い | ⑰ | テレビ視聴時間 (1日平均) | 1. 30分以内 2. 1時間以内 3. 1時間30分以内 4. 2時間以内 5. 2時間30分以内 6. 3時間以内 7. 3時間30分以内 8. 4時間以内 9. その他() | | | | | | | | | | |
| ⑦ | 地域のあそび環境 (複数回答) | 1. 近所に公園など広いあそび場所がある 2. 近所に公園など広いあそび場所がない 3. 近所に公園など広いあそび場所はあるが 年上の子どもや大人に占領されてあそべ ない 4. 近所に池や川・材木置場など危険と思われ る所がある 5. 近所は交通量が多い 6. 近所は交通量が少ない 7. 近所にあそび仲間がいる 8. 近所にあそび仲間があまりいない 9. 習い事であそぶ時間がない 10. その他 | | | ⑱ | テレビ視聴時間帯 (複数回答) | 1. 起床から登園するまで 2. 園から帰って夕食まで 3. 食事中 4. 室内であそびながら 5. 午後3時～4時 6. 午後4時～5時 7. 午後5時～6時 8. 午後6時～7時 9. 午後7時～8時 10. 午後8時～9時 11. 午後9時～10時 12. その他() | | | | | | | | |
| | | ⑧ | | | | | よくあそぶ場所 | 1. 公園 2. 空き地 3. 道路 4. 駐車場 5. 寺や神社 6. 野原 7. 池や川 8. 自宅の庭 9. 家の中 10. 友達の家 11. 学校や幼稚園の運動場 12. その他() | ⑲ | 習い事の有無 | 1. 習っている 2. 習っていない | | | | |
| | | | | | | | | ⑨ | | | よくあそぶ相手 | 1. 父・母 2. 祖父母 3. 兄または姉 4. 弟または妹 5. ひとり 6. 同じクラスの友達 7. 同年齢の他のクラスの友達 8. 習い事の友達 9. 年上の友達 10. 年下の友達 11. その他 | ⑳ | 習い事の種類の | 1. 運動系の習い事 2. 非運動系の習い事 3. 両方とも習っている |
| | | | | | | | | | | | | ⑩ | | | 戸外・室内あそび の多少 |
| ⑪ | 戸外あそびの時間 | 1. 30分以内 2. 1時間以内 3. 1時間30分以内 4. 2時間以内 5. 2時間30分以内 6. 3時間以内 7. 3時間以上 8. その他() | ㉒ | 子どもの体の調査 ・異常の有無 ・異常の内容 | ア. 異常を実感する イ. 異常を実感しない 1. アレルギー 2. すぐ「疲れた」という 3. 皮膚がかさかさ 4. 背中ぐにゃ 5. ぜんそく 6. つまづいてよく転ぶ 7. 朝からあくび 8. すぐ疲れて歩けない 9. 転んでも手が出ない 10. 腹・頭痛を訴える | | | | | | | | | | |

3. 結果および考察

[I] 戸外あそびについて

戸外でよくあそんでいる者は、どのような場所であそんでいるのだろうか。戸外あそびと室内あそびとではあそび仲間に差異があると思われるが、どのような状況に差異があるのだろうか。また、習い事が忙しくてあそぶ時間が圧迫されているのではないだろうか。等々について、ここでは戸外あそびの多少を中心に考察していく。

(戸外あそび～室内あそびの比率は図-12を参照)

図-1 地域のあそび環境 「戸外あそびの多少」 複数回答 (%)

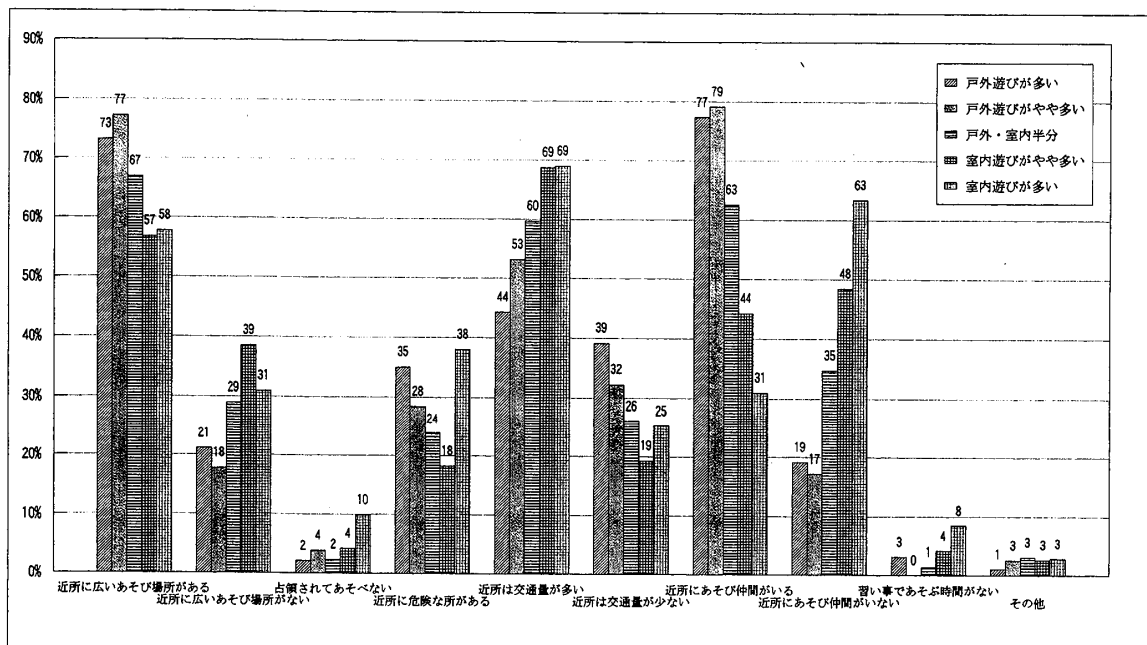


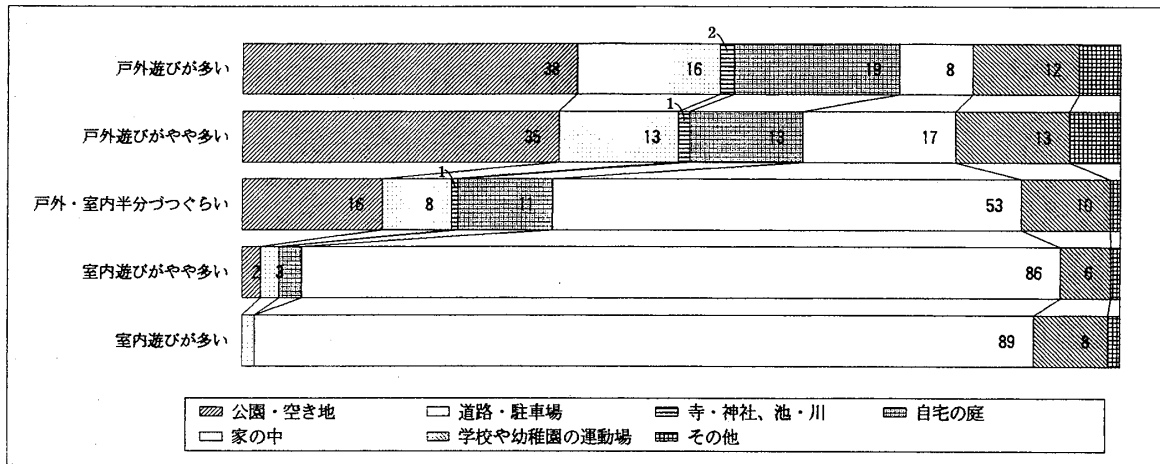
図-1より、地域のあそび環境の中で注目すべき点はあそび場所の有無とあそび仲間の有無および交通量の多少であろう。戸外あそびが多いと回答した者に、近所に公園等の広いあそび場所があり、近所にあそび仲間がおり、近所は交通量が少ないという結果で、室内であそぶにしたがってこの逆になっている。

図-2より、戸外あそびが多いと回答した者の35%が道路・駐車場、自宅の庭と身近な所をあそび場所としている。道路や駐車場をあそび場所として利用したり、自宅の庭にあそぶスペースがあるというのは、都市の中心部ではほとんどない。このことから戸外あそびは居住地と密接に関わってくると考えられる。

図-3・4・5より、あそび仲間については、戸外でよくあそぶにしたがって友達とよくあそび、家族(父母・祖父母、兄弟・姉妹)とあそぶ割合が低くなる。また、あそび仲間の数は平均すると70%が2～3人であそんでいると回答しているが、戸外でよくあそぶにしたがってこの人数も増える傾向にある。また、戸外でよくあそぶほどあそび仲間がだいたい決まってい

図-2 よくあそぶ場所 (全体) <戸外あそび> (%)

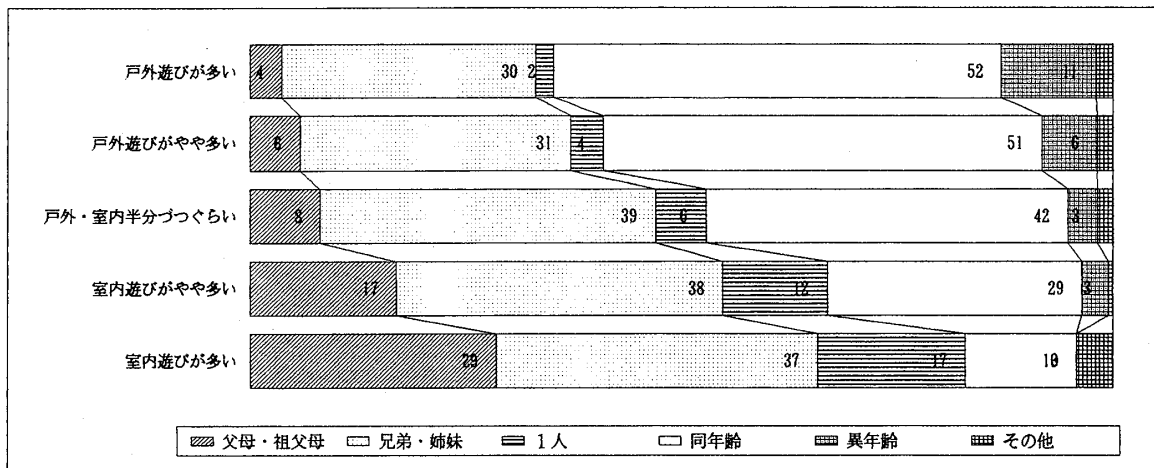
(%)



P<0.01

図-3 よくあそぶ相手 (全体) <戸外あそび> (%)

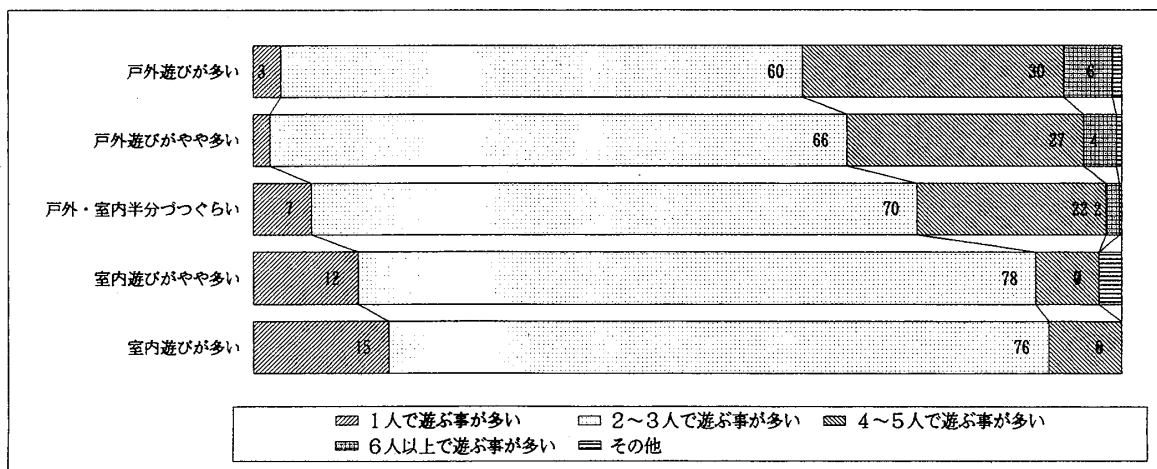
(%)



P<0.01

図-4 仲間の数 (全体) <戸外あそび> (%)

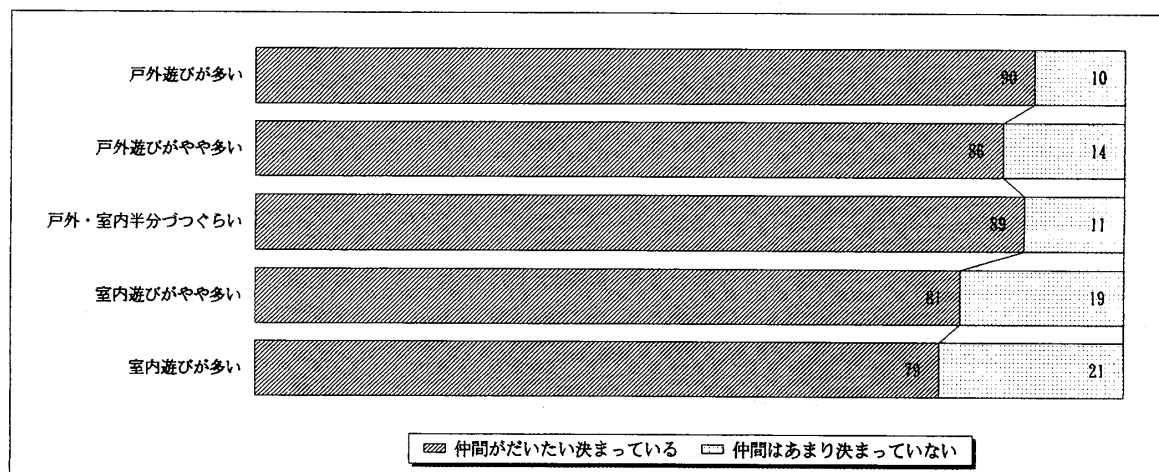
(%)



P<0.01

図-5 仲間の状況 (全体) <戸外あそび>

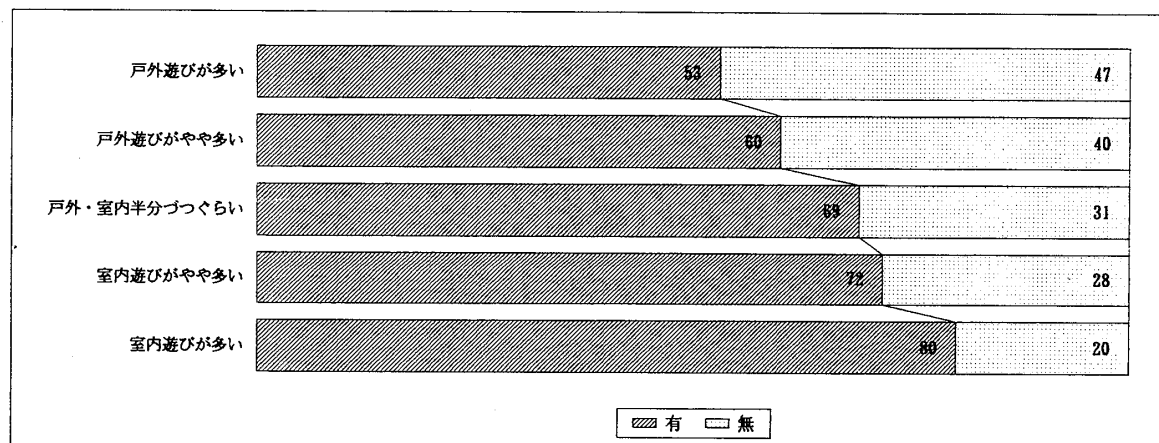
(%)



P<0.05

図-6 子どもの体の異常の有無 (全体) <戸外あそび>

(%)



P<0.01

ようである。仲間の性別については戸外あそびの多少と関連がみられなかった。

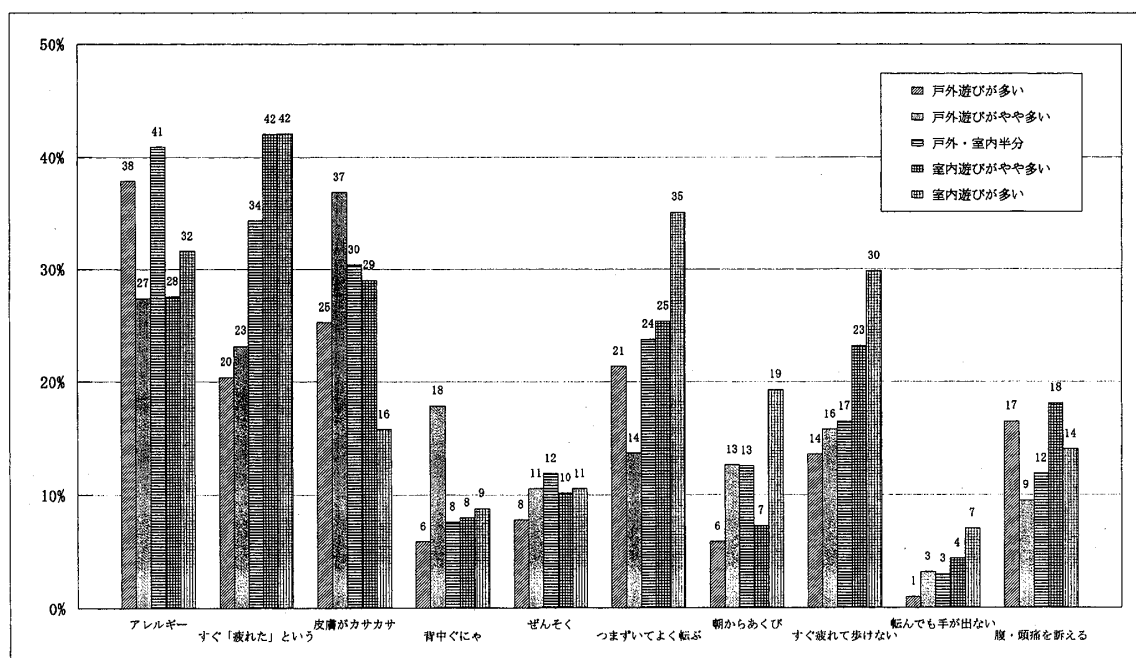
図-6・7は、<子どもの体の調査「最近ふえている」という実感頻度のワースト10>である。これは、1995年発行の「子ども白書」に“子どもの体の調査'95”として掲載された。その内容は、1978年から5年ごとに日本体育大学の体育研究所や学校体育研究室が、“子どものからだのおかしさ”として保育や教育の現場で実感されている事象を定時観測的に継続して調査してきたもので、その中の幼稚園の部のワースト（異常）10を引用したものである。

異常を実感（一つ以上選択している場合）している者は室内あそびが多くなるほど増加していく。そして、この内容に一つの傾向がみられる。‘すぐ「疲れた」という・つまずいてよく転ぶ・すぐ疲れて歩けない・転んでも手が出ない’など身体活動と関連がある項目に対し、室内あそびが多くなるにつれてその割合が増加している。

* 戸外あそびの多少とテレビ視聴、習い事などとは関連がみられなかった。

図-7 子どもの体の調査<ワースト10>「戸外あそびの多少」

<複数回答> (%)



〔Ⅱ〕 各々の項目について

(a) 質問項目ごとに次の項目とクロス集計をして、それを帯グラフで表し、カイ自乗検定で関連のある項目について考察をおこなった。クロス項目は、「全体（平均）」、「性」、「年齢」、「地域」、「活動的なあそびの好嫌度」である。

(b) 複数回答の項目については棒グラフで表し、(a) のクロス項目の中で傾向が見られるものをとりあげて考察をおこなった。

(c) ◎印は直接関連環境、○印は間接関連環境

◎活動的なあそびの好嫌度 (図-8)

性では、やはり男子の方に好む傾向があるが、年齢、地域では関連がみられなかった。全体では「好む」(50%)「まあまあ好む」(25%)とで75%が回答しており、このことから活動的なあそびを好む者が多い。活動的なあそびを好むと回答している者は当然戸外でよくあそんでいると思われるが、必ずしもそうではない。図-12の活動的なあそびの項より、半数は室内あそびを好んでいるがこれを戸外あそびの項目とクロスすると、活動的なあそびを好んでよく戸外であそんでいるのが33%である。前述したように50%が活動的なあそびを好んでいることを考えあわせると、活動的なあそびは好きなのだが戸外であそべないという現状があるのではなかろうか。このように、質問項目と質問項目とをクロスして分析することによって、好んでいるけれど戸外で『あそばない・あそべない』のはあそび環境がどのように関わっているのかを以下の項目より考察していきたい。

◎地域のあそび環境 (図-9) 複数回答

「…広いあそび場所」について、A・B地域は70%があると回答しているがC地域はあるが

図-8 活動的なあそびの好き嫌い

(%)

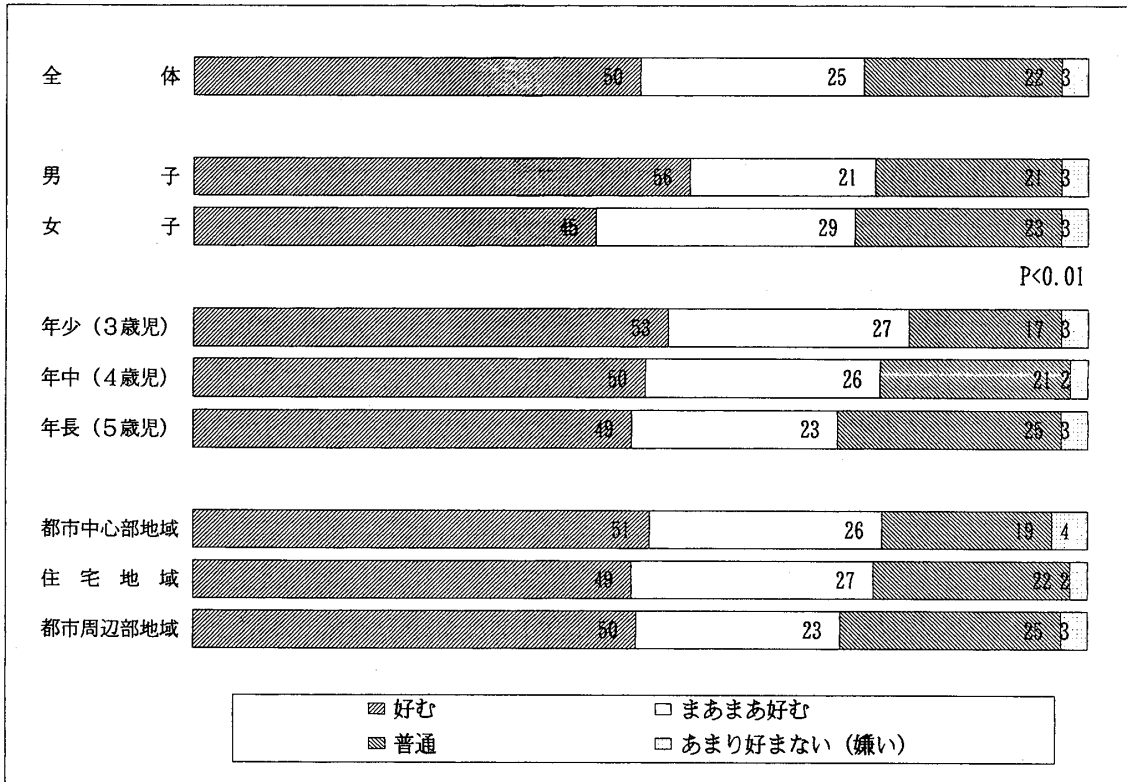
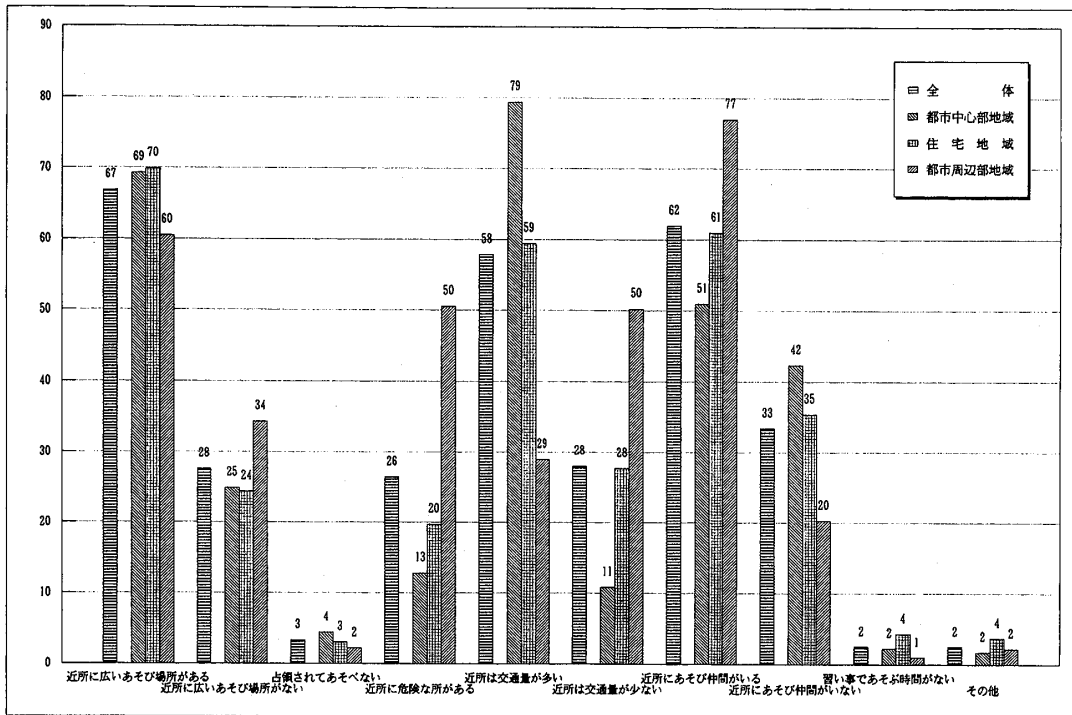


図-9 地域のあそび環境 (全体および居住地域)

<複数回答>

(%)



60%、ないが34%と回答率が低い。

‘…危険な所がある’について、C地域が50%で他の地域に比べて非常に多い。このように

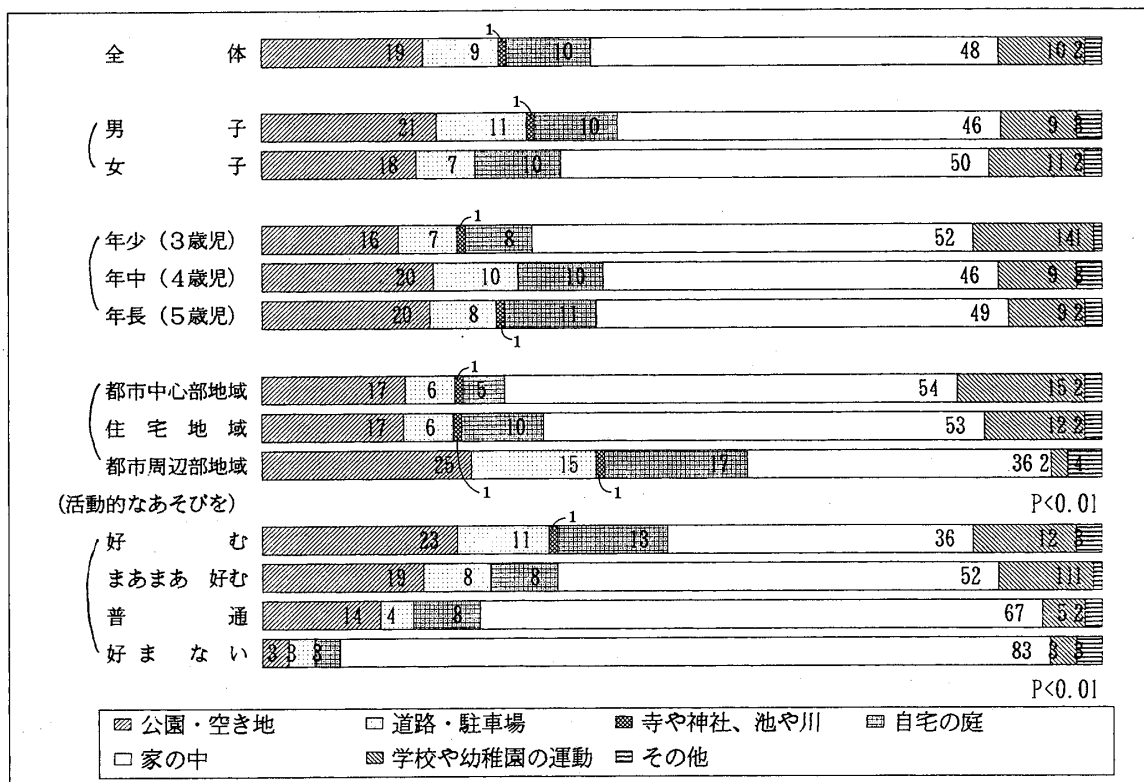
危険な場所が多いのでは戸外であそべないのではと思われるが、後で述べるように、このC地域は最も戸外でよくあそんでいる地域である。大人が危険と思っている場所は子どもにとっては格好のあそび場なのかもしれない。

‘…交通量’について、地域間で最も差のある項目である。交通量の多いと回答している順はA地域(79%)→B地域(59%)→C地域(29%)となる。これは図-1でも述べたように戸外あそびの環境に影響をおよぼす要因の一つと考えられる。

‘…あそび仲間’について、これも地域間で差のある項目である。あそび仲間がいると回答している順はC地域(77%)→B地域(61%)→A地域(51%)でC地域に最もあそび仲間がいる。あそび仲間がいないについてはA地域の42%がいないと回答している。あそび仲間については子ども自身に友達ができにくい要素がある場合もあるだろうが、この42%という数字はそれだけではないと思われる。

◎よくあそぶ場所 (図-10)

図-10 よくあそぶ場所 (％)



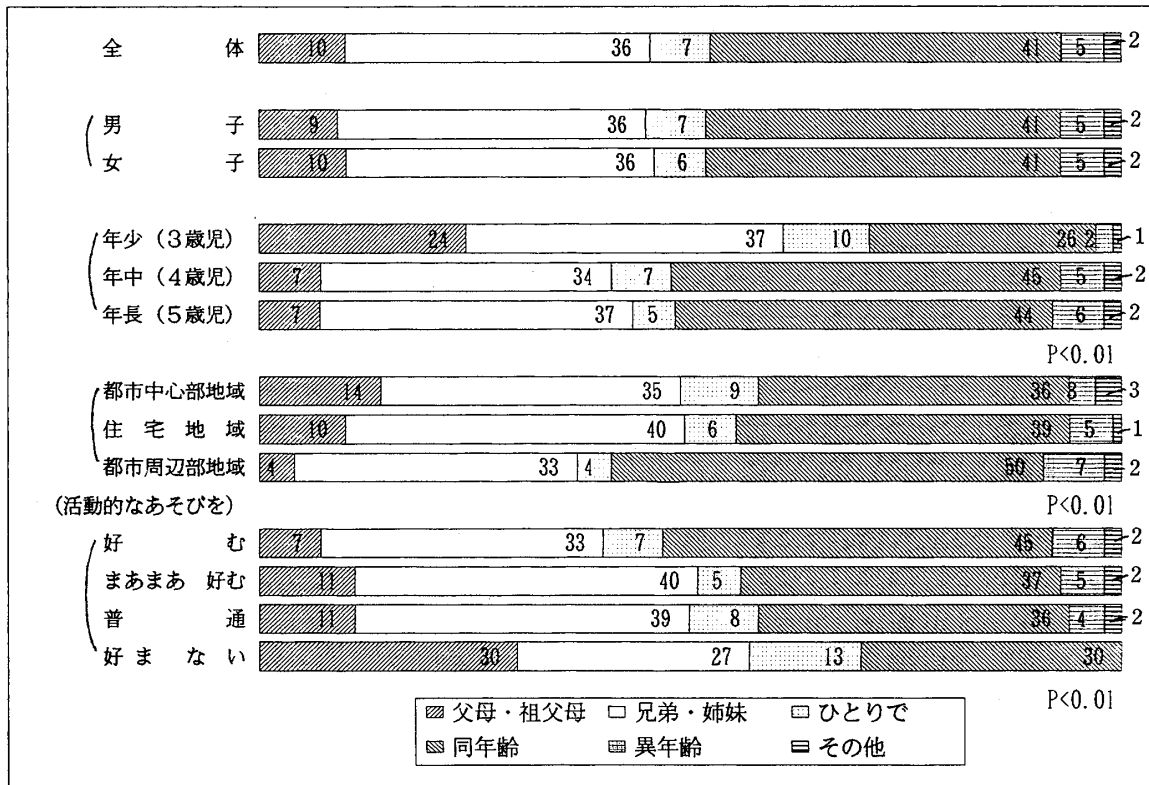
<地域・活動的なあそびの好嫌度、各々に関連がみられた>

C地域は特に戸外をあそび場所に行っている割合が高い。公園・空き地については、グラフ9より‘近所に公園等の広い場所があるかどうか’の項目で三地域のなかでは最もないという回答であったが、よくあそぶ場所の質問項目の‘公園・空き地’は多いと回答している。これは公園のように整備された場所ではないが、子どもたちが自由にあそべる空間がまだまだ残って

いるということであろう。そして道路・駐車場をあそび場所としている割合も高い。しかし、学校や幼稚園の運動場はこの逆で、A、B地域のほうがあそび場所として利用している。これは、交通量等とも関係があるのではないだろうか。活動的なあそびの好嫌度については好むにしたがって戸外でよくあそんでおり、好まないほど家の中であそんでいる。これは当然の結果であろう。

◎よくあそぶ相手 (図-11)

図-11 よくあそぶ相手 (%)



<年齢・地域・活動的なあそびの好嫌度、各々に関連がみられた>

性では男女ほぼ同様の傾向を示している。年齢では年中・年長がほぼ同様の傾向で年少に家族（父母・祖父母）とあそぶが24%、友達（同年齢・異年齢）とあそぶが28%と他の年齢とは異なり大人とあそぶ傾向がある。これは、年齢の上昇とともに社会的な面が成長していくことの表れであろう。地域においてはA地域→B地域→C地域の順に家族より友達とあそぶ傾向にある。特にC地域においてその傾向が顕著である。また、活動的なあそびの好嫌度についても好むにしたがって友達とあそんでいる割合が高い。そして、好まないと回答した者は家族とあそぶ傾向が顕著である。

◎あそびの内容「戸外あそび～室内あそびの傾向」(図-12)

<性・年齢・地域・活動的なあそびの好嫌度、各々に関連がみられた>

性では女子より男子の方が戸外でよくあそんでいる。年齢では年齢の上昇にしたがって戸外

図-12 あそび内容<戸外あそび・室内あそびの傾向>

(%)

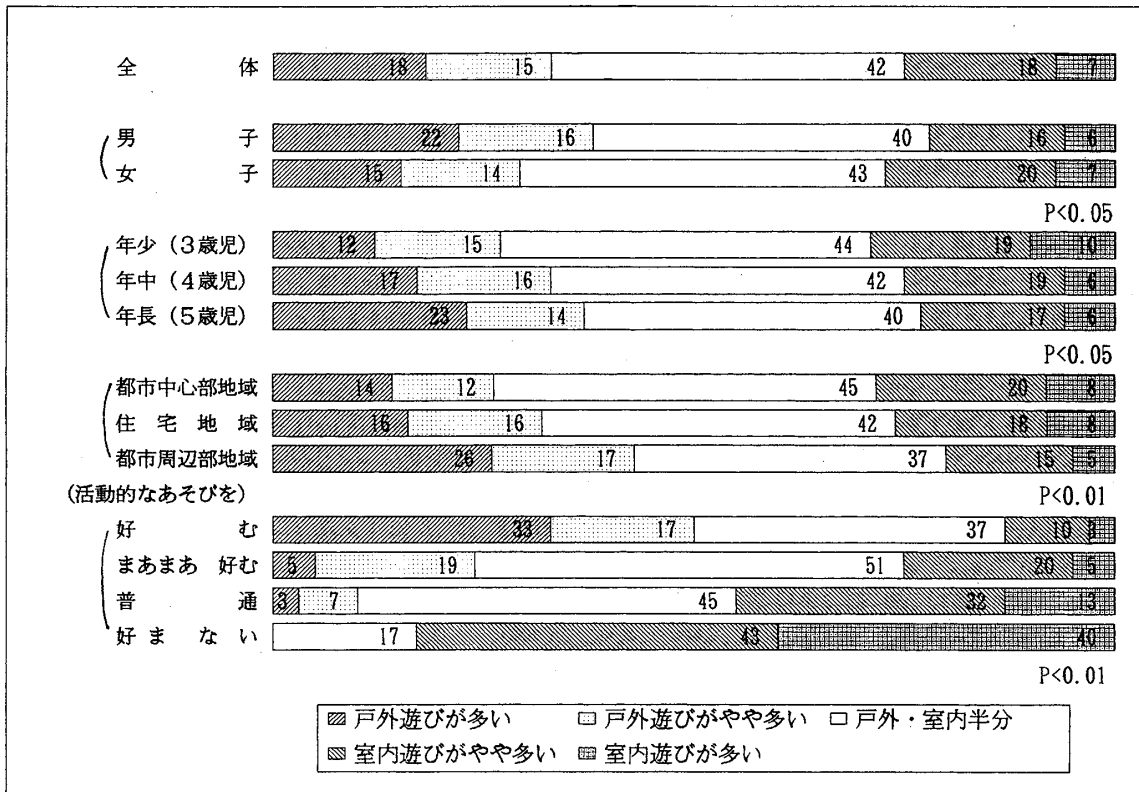
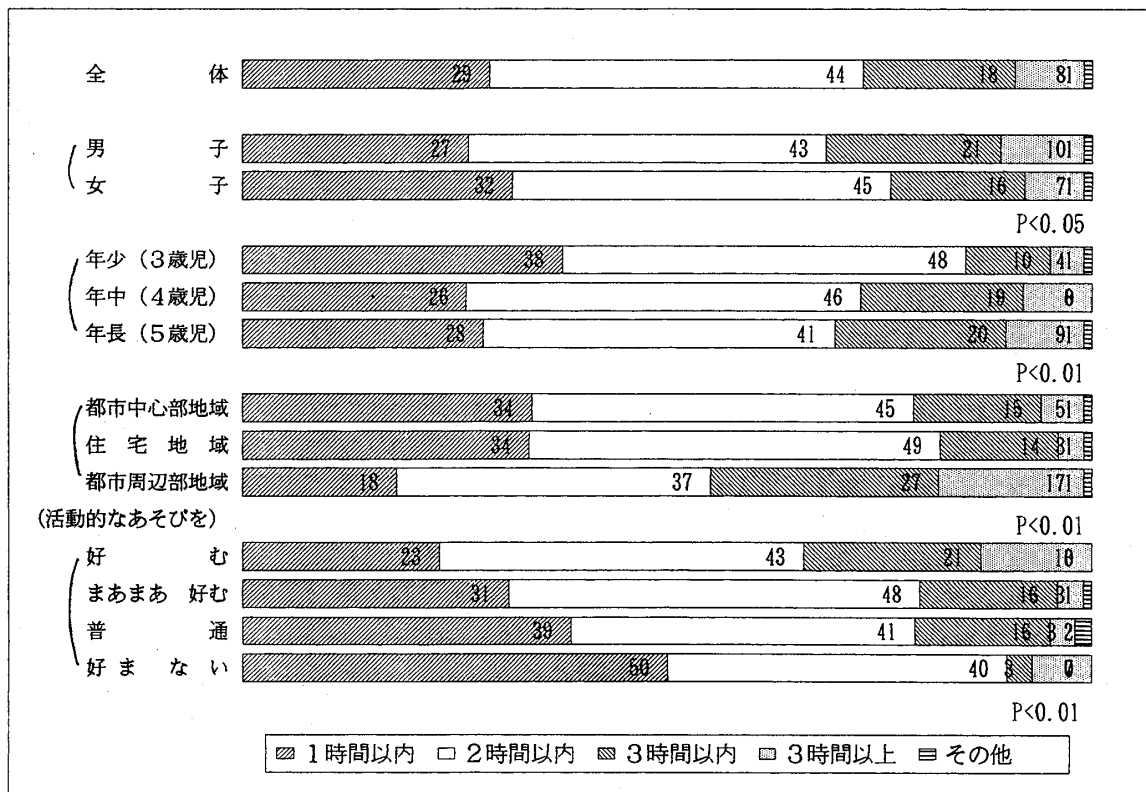


図-13 戸外あそびの時間

(%)



でよくあそんでいる。地域ではC地域→B地域→A地域の順に戸外でよくあそんでいる。活動的なあそびの好嫌度では当然好む方が戸外でよくあそんでいる。

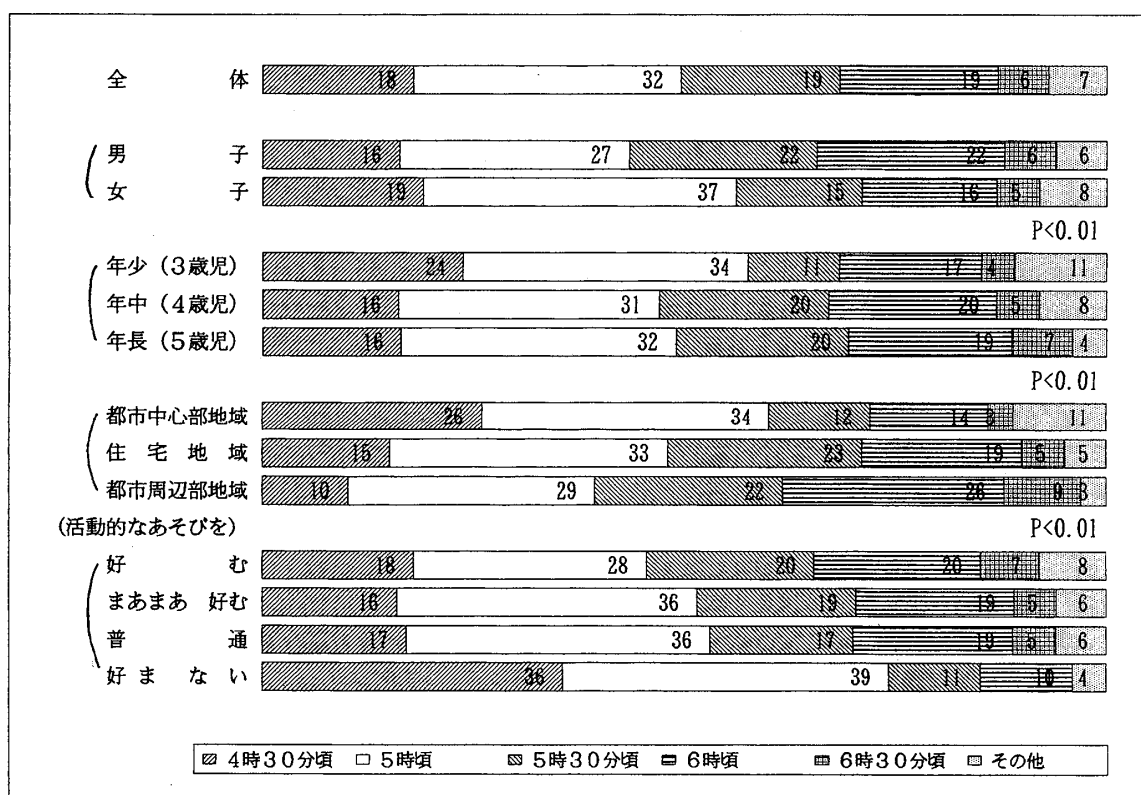
◎戸外あそびの時間 (図-13)

〈年齢・地域・活動的なあそびの好嫌度、各々に関連がみられた〉

男子の方が女子より長時間あそんでいる。年少は年長・年中と比較して戸外あそびの時間が短い。地域ではC地域が3時間以内・以上を合わせて44%と、最も長時間戸外であそんでいる。あそびの好嫌度では当然のことながら好むにしたがって戸外でのあそび時間が長い。

◎戸外あそびからの帰宅時間 (図-14)

図-14 戸外あそびからの帰宅時間 (%) (%)



〈性・年齢・地域、各々に関連がみられた〉

性と年齢および地域は前述の戸外あそびの時間と同様の傾向を示しており、遊びの時間が長い者ほど帰宅時間も遅い。特にC地域は、この傾向が大きい。

◎戸外あそびの仲間の数 (図-15)

特に各々の項目には関連はなく70%前後が2～3人であそぶことが多いと回答している。

◎戸外あそびの仲間の性別 (図-16)

〈年齢に関連がみられた〉

年齢の上昇につれて同性とあそぶ傾向がある。

◎戸外あそびの仲間の状況「仲間が決まっている・いない」 (図-17)

図-15 戸外あそびの仲間の数

(%)

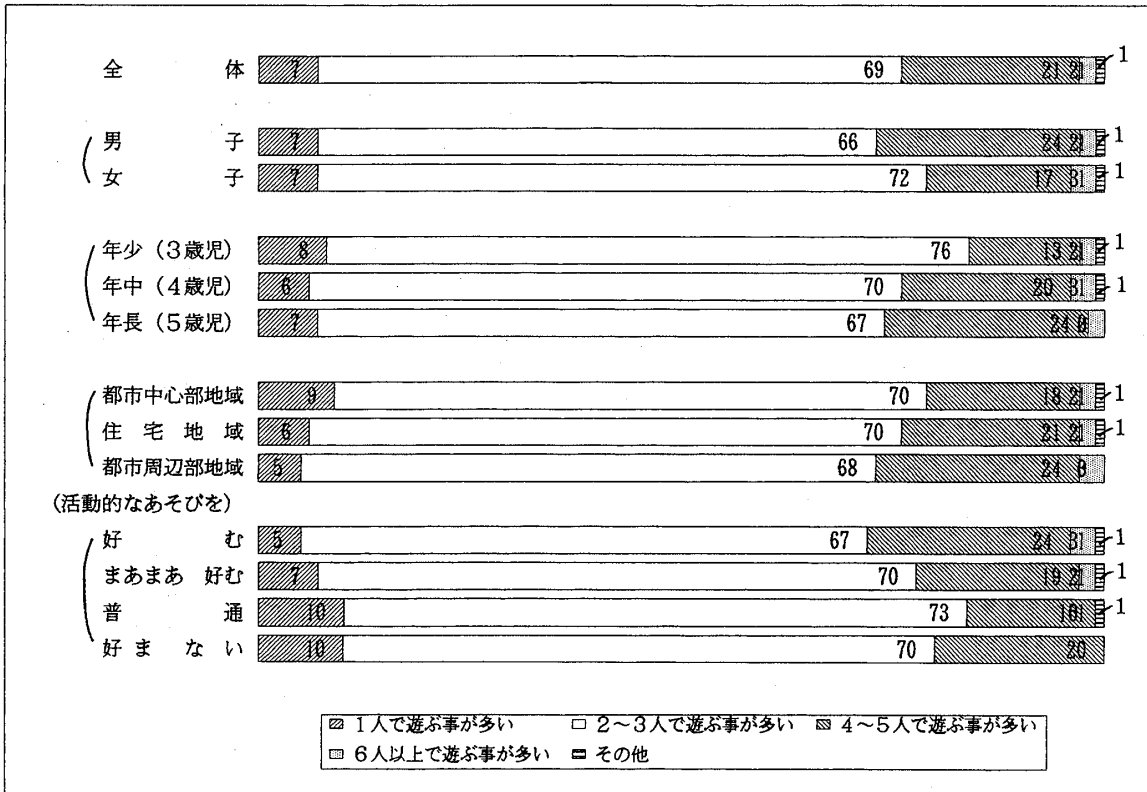


図-16 戸外あそびの仲間の性別

(%)

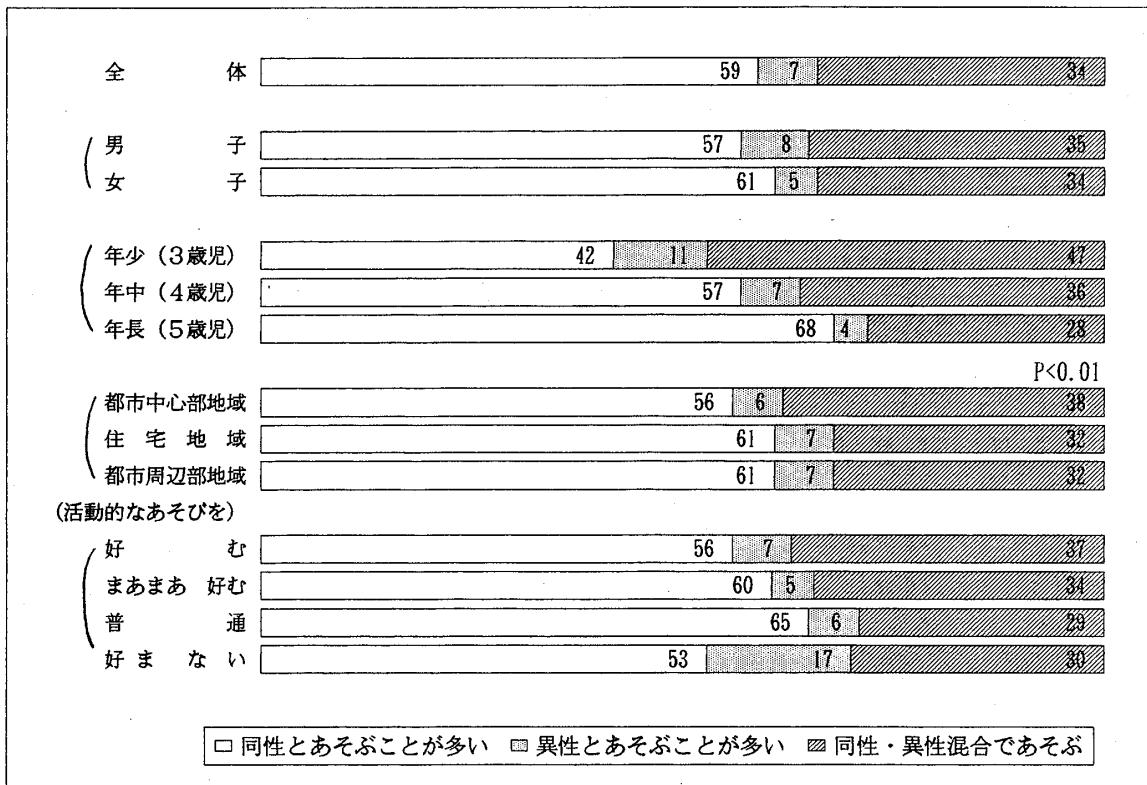
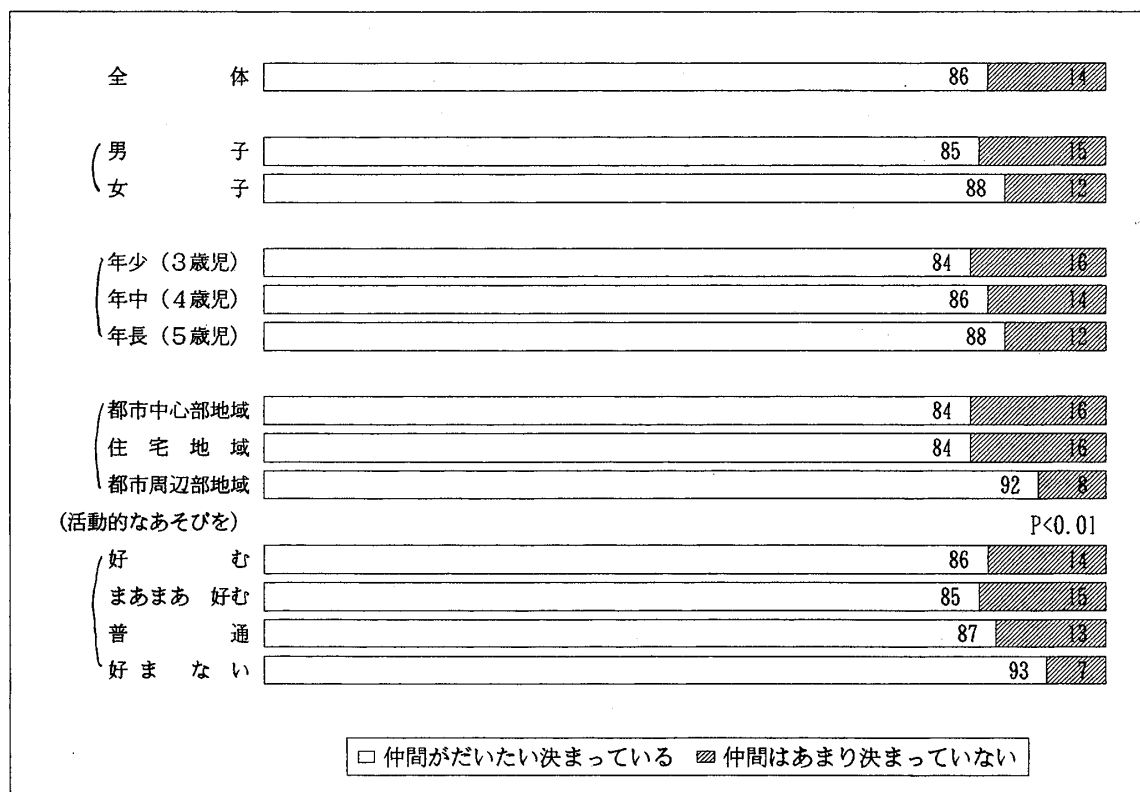


図-17 戸外あそびの仲間の状況

(%)



<地域に関連がみられた>

C地域はA・B地域に比べると、いつもあそぶ仲間がだいたい決まっている割合が高いようである。

○兄弟・姉妹の数 (図-18)

<地域に関連がみられた>

C地域は33%が兄弟・姉妹3人以上との回答であった。

○祖父母と同居の有無 (図-19)

<地域に関連がみられた>

同居はB地域に少なく12%であった。

○起床時間 (図-20)

<年齢・地域、各々に関連がみられた>

年中(4歳児)が早起きで90%が8時迄に起床している。A地域が一番朝寝坊で32%が8時以降に起床している。

○就寝時間 (図-21)

<年齢・地域、各々に関連がみられた>

年少(3歳児)に10時以降に寝るというのが26%もある。A地域では32%が10時以降に寝ている。

図-18 兄弟・姉妹の数

(%)

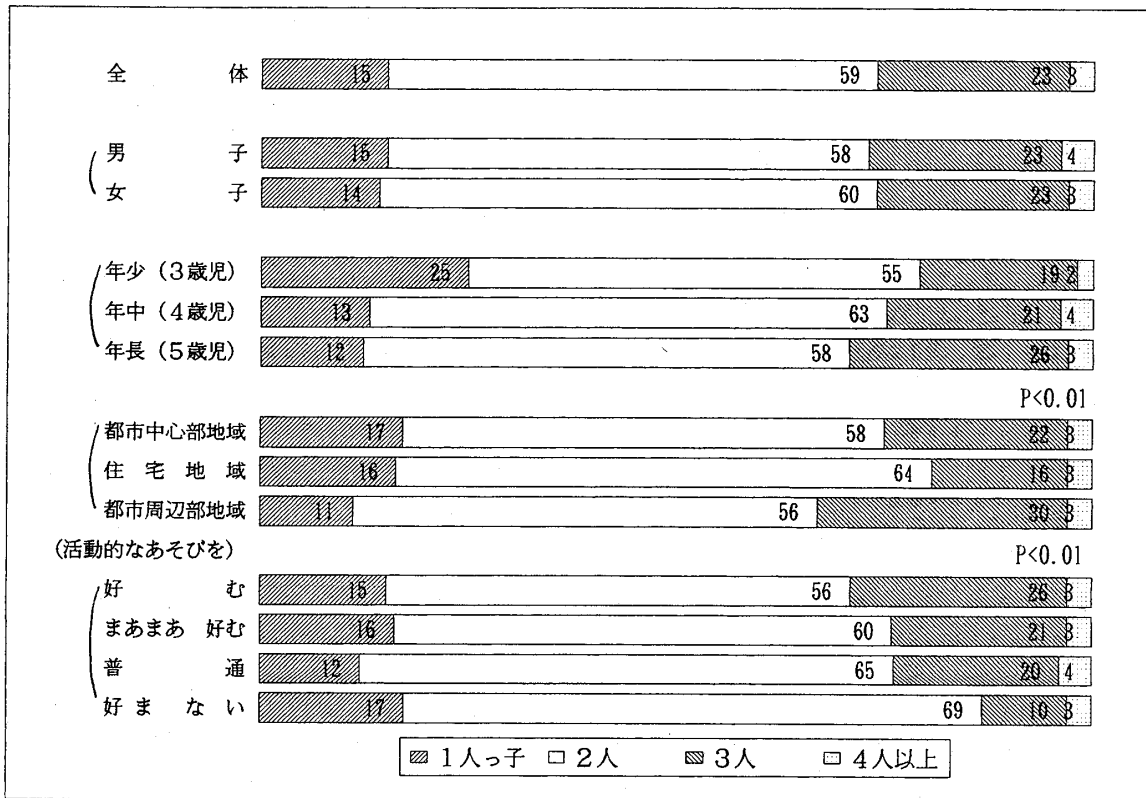


図-19 祖父母と同居の有無

(%)

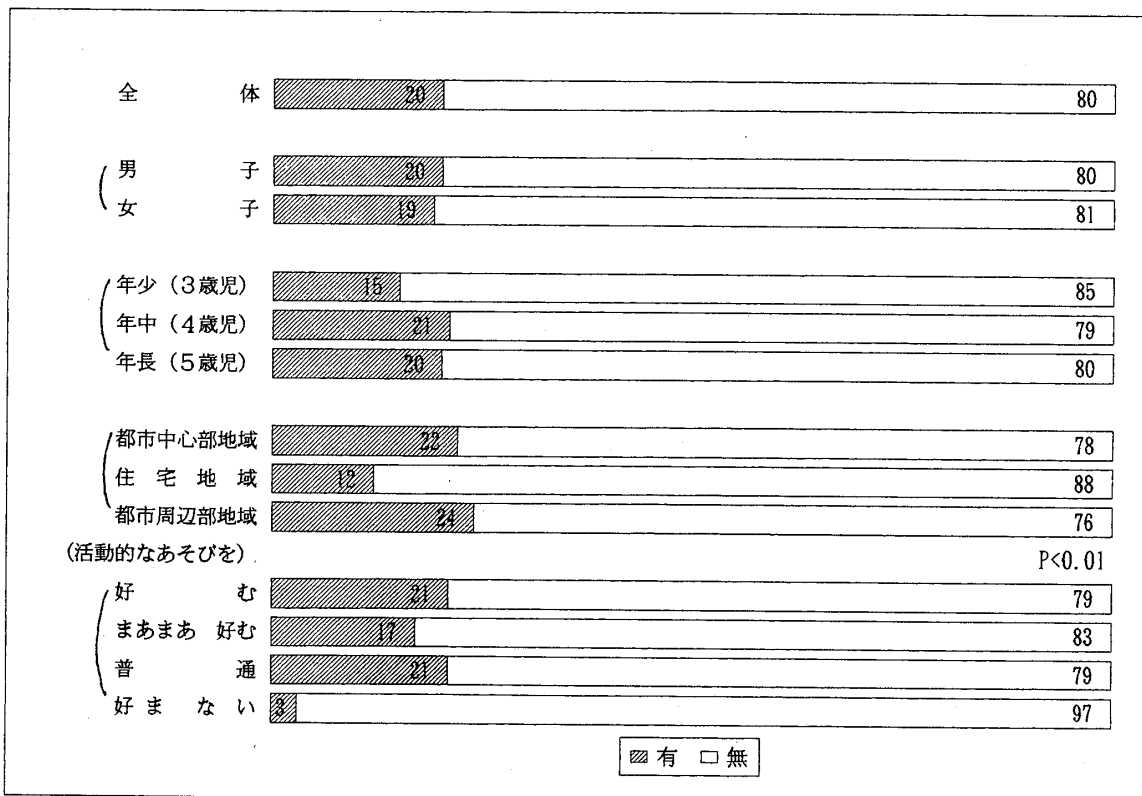


図-20 起床時間

(%)

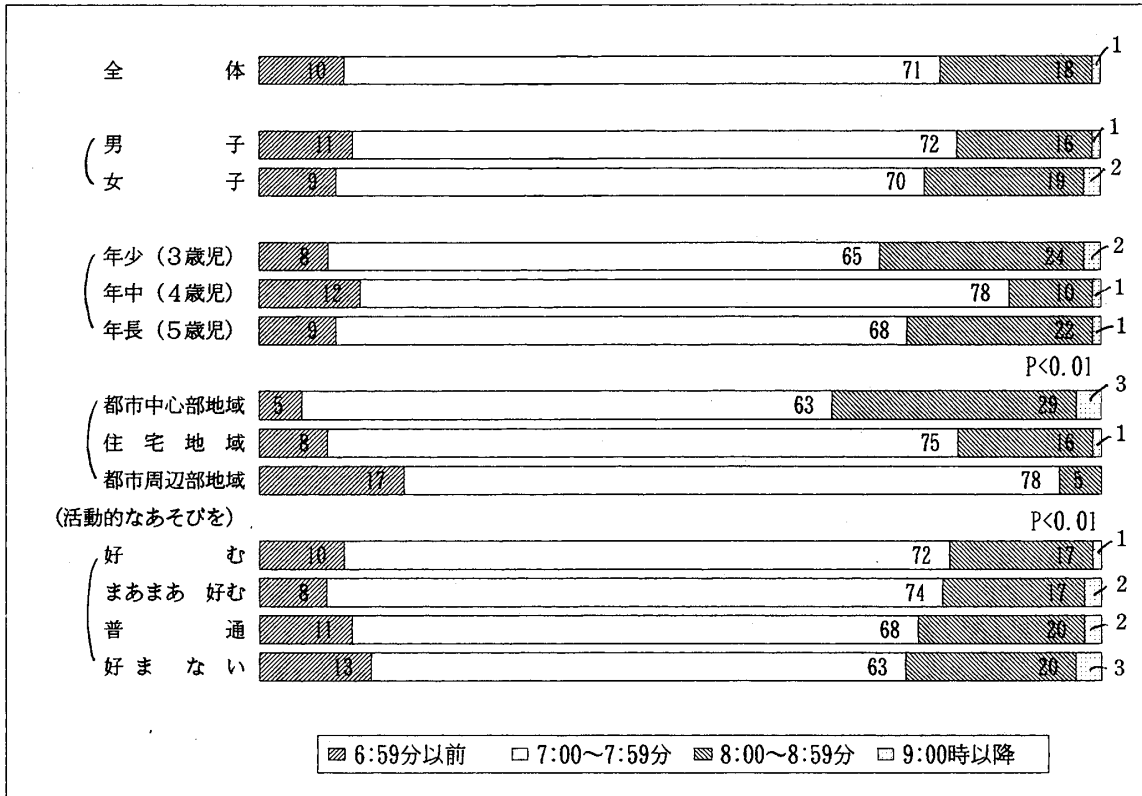
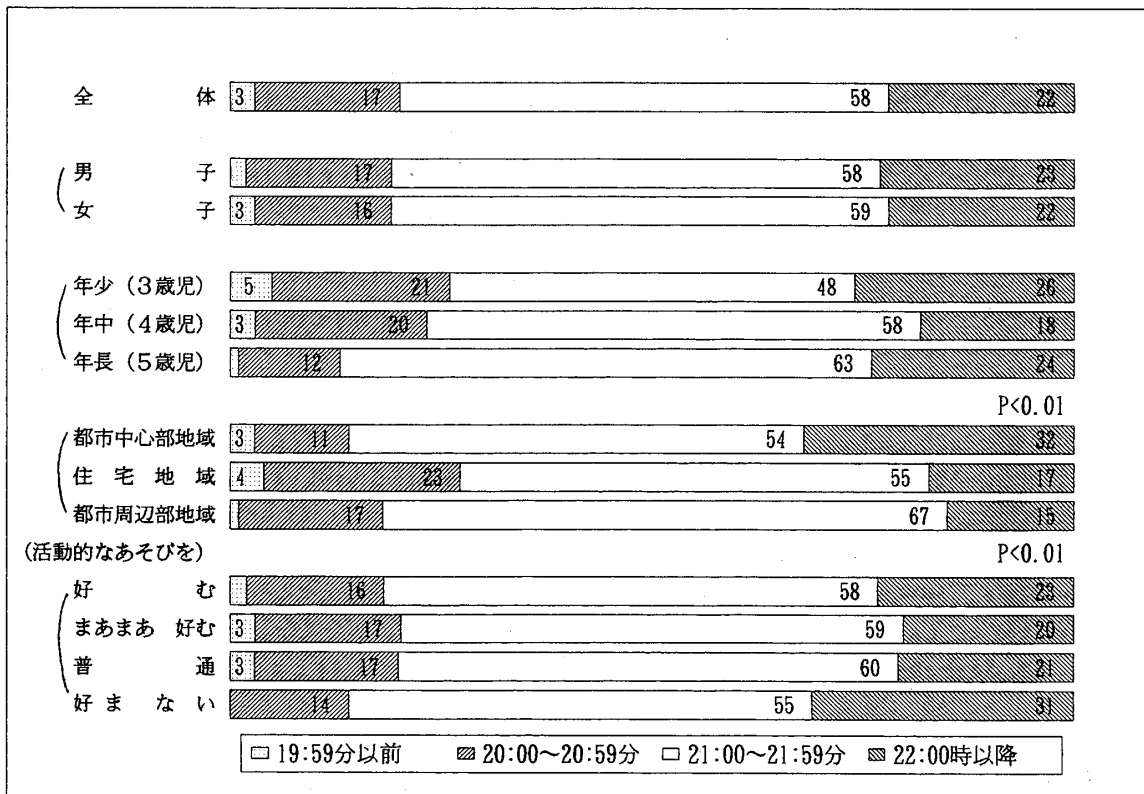


図-21 就寝時間

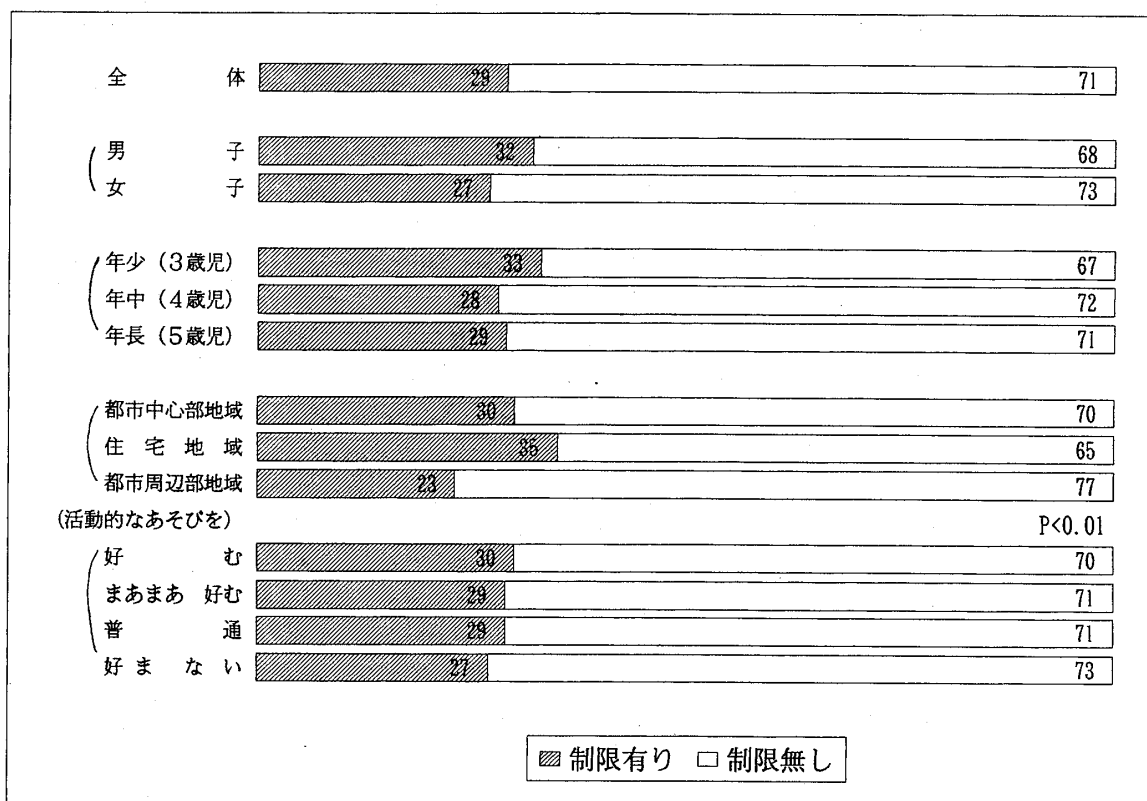
(%)



○テレビ視聴時間制限の有無 (図-22)

図-22 テレビ視聴時間制限の有無

(%)



〈地域に関連がみられた〉

制限しているのは、割合の高い順からB地域→A地域→C地域となっている。

○テレビ視聴時間<1日平均> (図-23)

〈地域に関連がみられた〉

三地域の中ではB地域がテレビを見る時間が少ない。

○習い事の有無 (図-24)

〈年齢・地域、各々に関連がみられた〉

年齢の上昇につれて習い事が増加し、年長では70%が何らかの習い事をしている。また、地域ではB地域において75%が習い事をしている。グラフを掲載していないが兄弟の数が少なくなるにつれて習い事をしている者の割合がA地域・C地域では増加している。

○習い事の数 (図-25)

〈年齢・地域、各々に関連がみられた〉

年齢の上昇とともに習い事の数が増加し、年長では21%が3種類以上習い事をしている。また、習い事が多いB地域では25%が3種類以上習い事をしている。

○習い事の回数<1週間平均> (図-26)

〈年齢・地域、各々に関連がみられた〉

図-23 テレビ視聴時間 (1日平均)

(%)

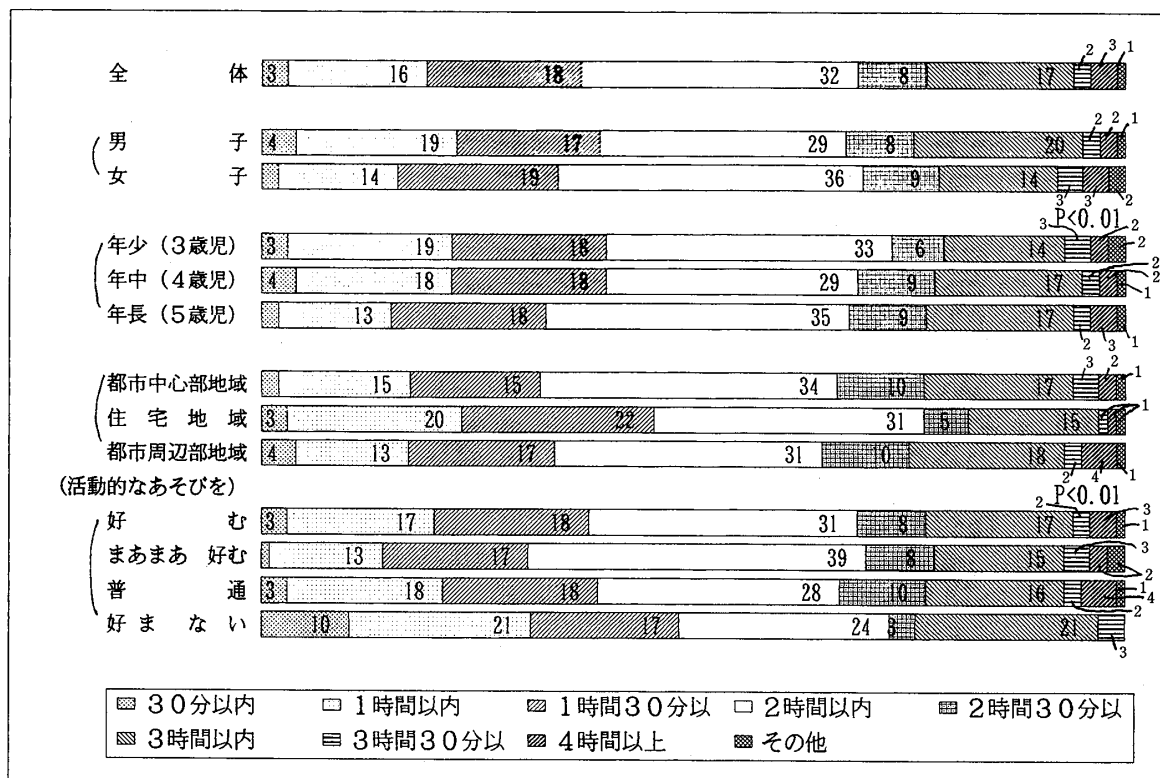


図-24 習い事の有無

(%)

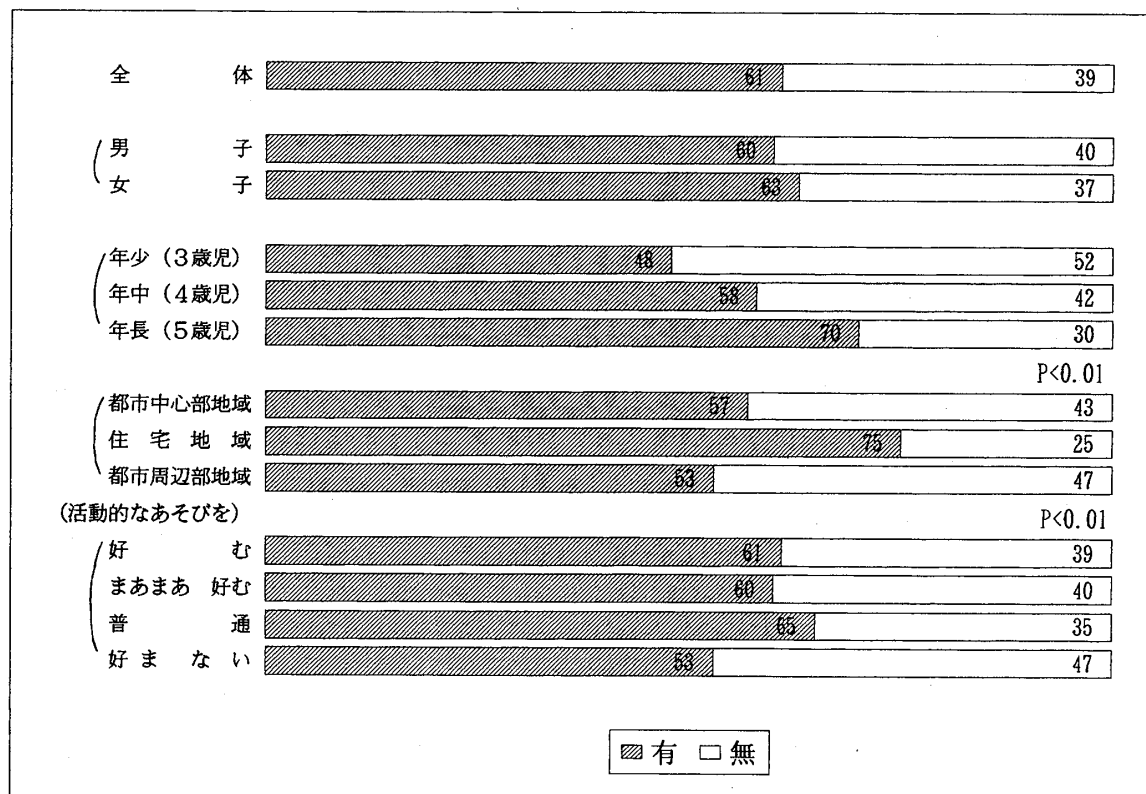


図-25 習い事の数

(%)

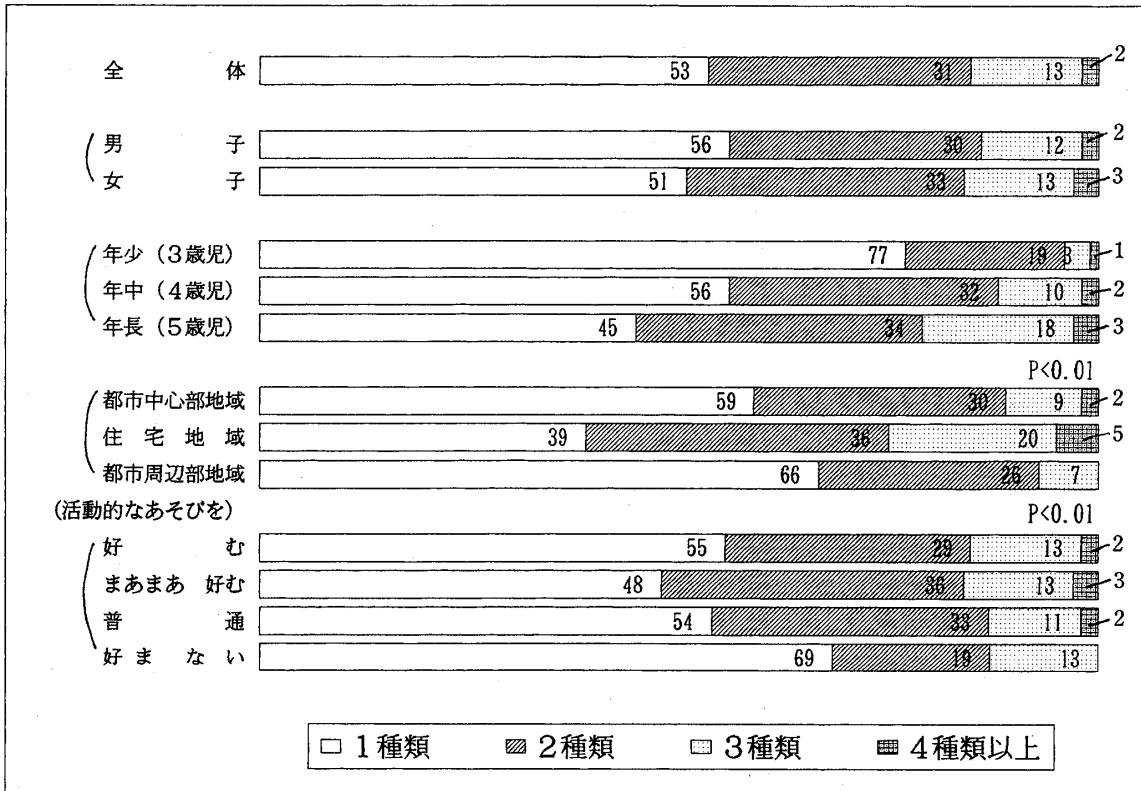
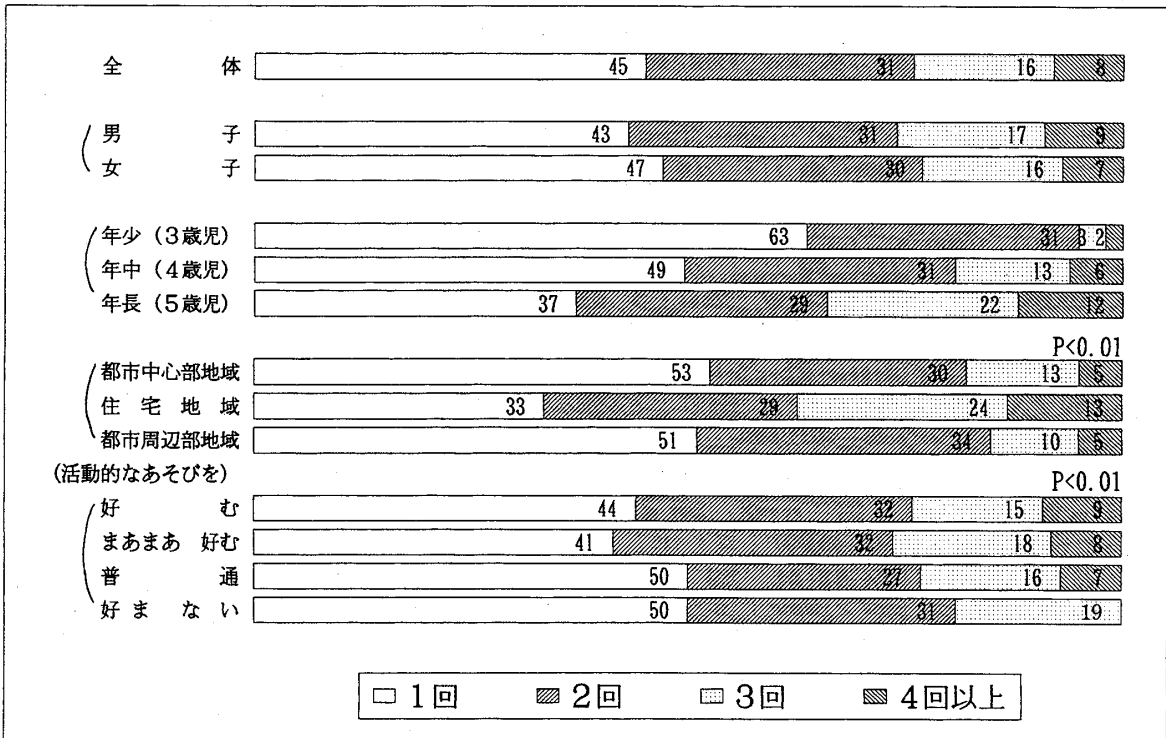


図-26 習い事の回数/週

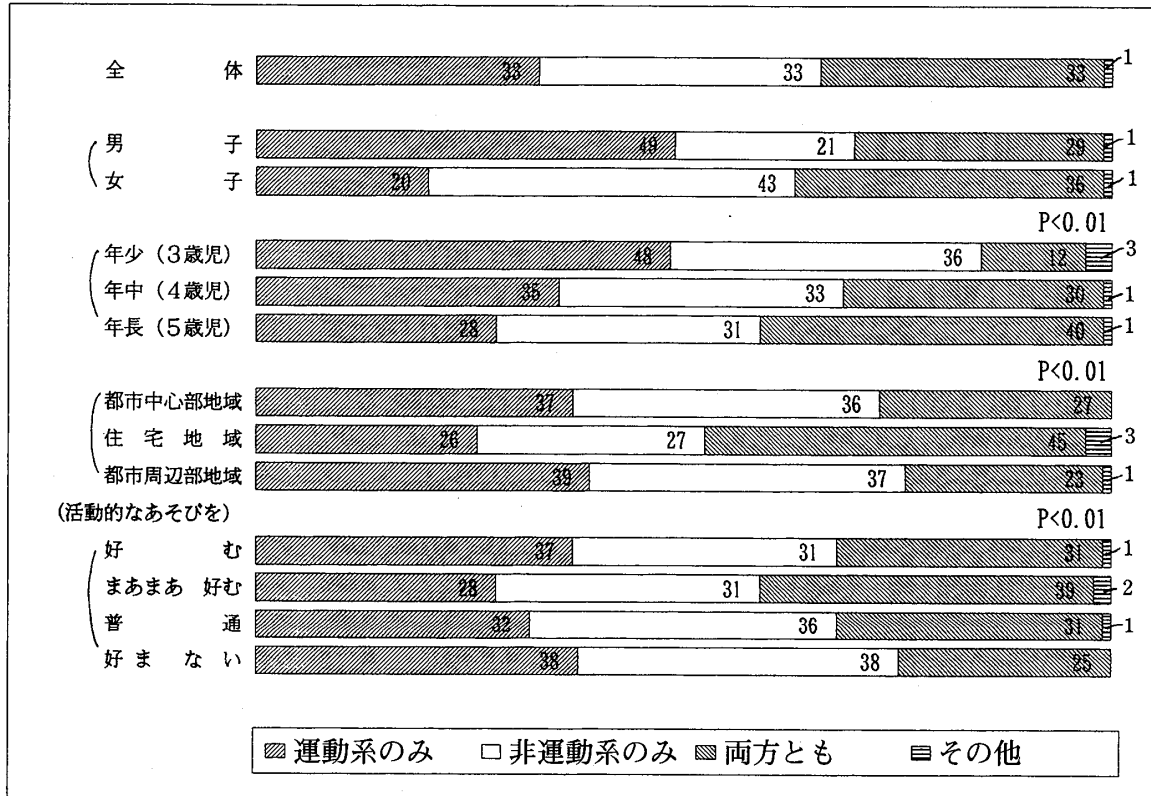
(%)



習い事の数に比例して、年齢の上昇とともに習い事に通う回数も増加する。その中でも年長の34%が1週間に3回以上習い事をしている。グラフは未掲載だがB地域においても3回以上習い事をしている者が37%にもものぼる。しかし、戸外あそびの多少とは関連はみられない。

○習い事の内容<運動系のみ、非運動系のみ、両方とも> (図-27)

図-27 習い事<運動系のみ、非運動系のみ、両方とも> (%)



<年齢・性別・地域、各々に関連がみられた>

運動系のみは男子が49%で、女子は20%である。運動系、非運動系両方とも習っているのは男子は29%、女子36%である。このことから運動系の習い事は男子では78%、女子では56%となり、圧倒的に男子に多い。また、年齢ではその上昇とともに両方習っている者が増加している。地域ではB地域に両方習っている割合が高い。

○運動系の習い事の動機・目的「活動的なあそびの好嫌度」(図-28) 複数回答

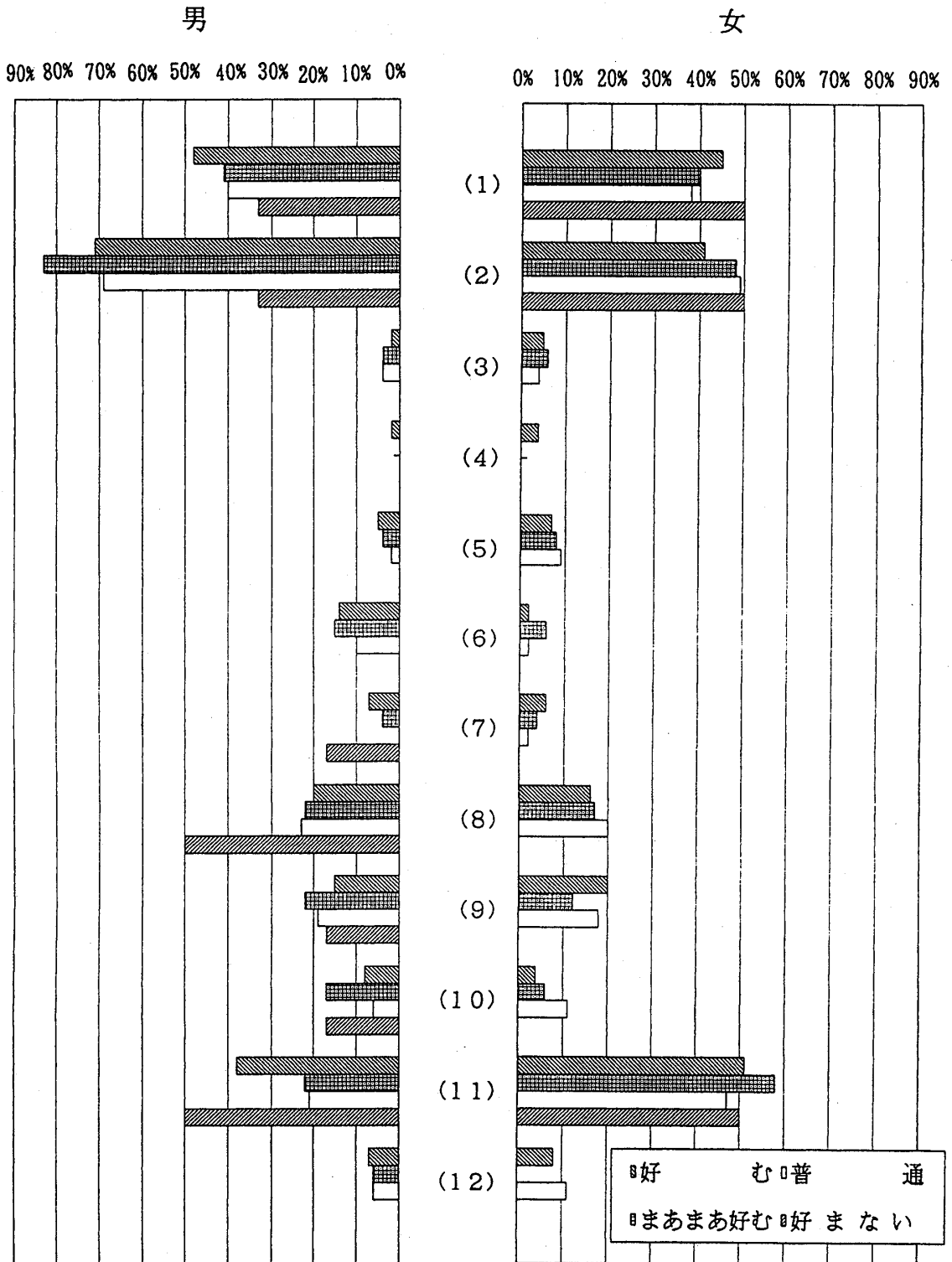
男子と女子では養育者(保護者)の期待の違いが感じられたので男女別に考察した。運動系ということで男女とも目的は、'体力作り' '健康のため' が圧倒的に多数である。しかし、好まないと回答した男子の目的の1位は'集団生活になれさせる' で友達との関わりに期待していることがうかがえる。

○子どもの体の調査について<異常の有無> (図-29)

<活動的なあそびの好嫌度に関連がみられた>

好まないにしたがって異常有りが増加し、好まないでは93%が異常を実感している。この選

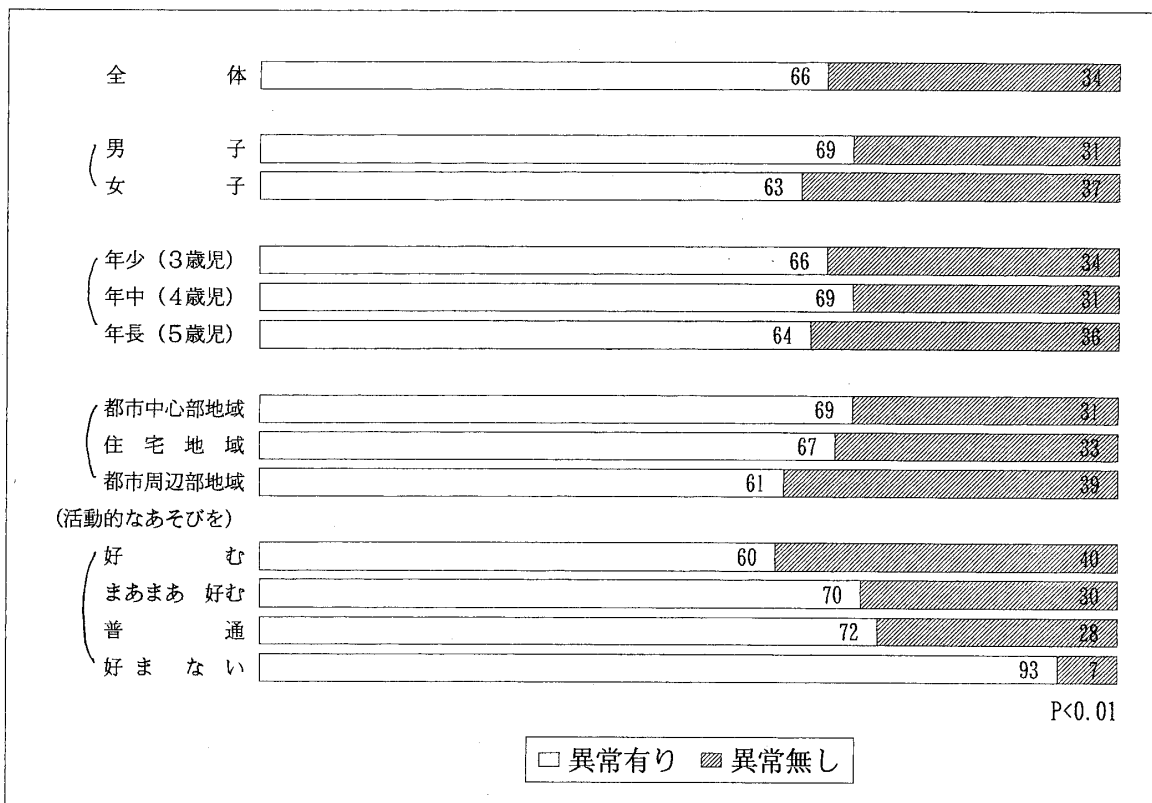
図-28 「運動系」の習い事の動機・目的 <活動的なあそびの好嫌度を中心とした男女の比較> (%)



- (1) 健康のため
- (4) しつけ
- (7) 礼儀をつける
- (10) 友達が行っているから
- (2) 体力作り
- (5) 集中力をつける
- (8) 集団生活になれさせる
- (11) 本人が行きたがった
- (3) 学校に役立つ
- (6) 忍耐力をつける
- (9) 技術を身につける
- (12) その他

図-29 子どもの体の調査 (異常の有無)

(%)

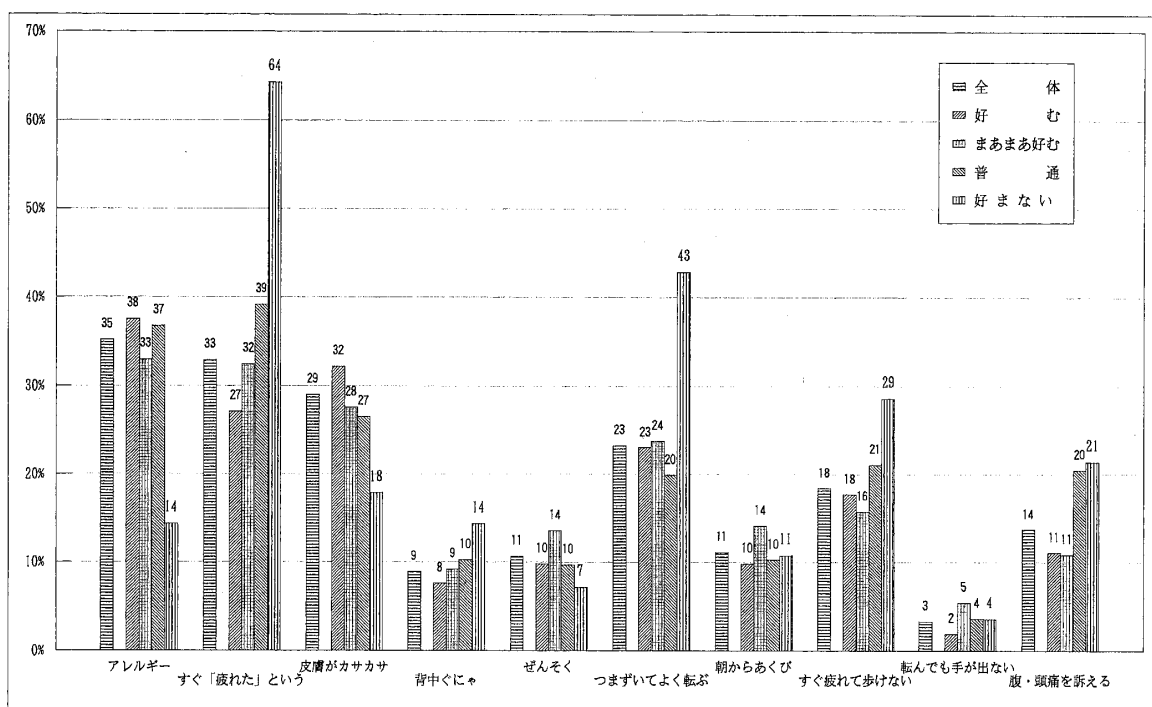


択肢の内容については図-30を参照。

○子どもの体の調査<ワースト10>「活動的なあそびの好嫌度」(図-30) 複数回答

図-30 子どもの体の調査<ワースト10>「活動的なあそびの好嫌度」

(%)



好まない者に、すぐ疲れたという・つまずいてよく転ぶ・すぐ疲れて歩けないなどの回答が多く日常生活の中での運動不足が感じられる。

〔Ⅲ〕まとめ

・直接環境について

性別では女子に比べて男子の方が活動的なあそびを好み、長時間戸外でよくあそんでいるので帰宅時間も当然遅い。年齢では成長とともに戸外あそびが多くなり、あそび相手も友達が増加し、同性とあそぶ割合が高くなる。そして、戸外であそんでいる時間も長くこれにともなって帰宅時間も遅い。地域では、三地域の中でC地域にあそび環境としてのよい条件が多いと考えられる。C地域は長時間戸外でよくあそんでおり、道路・駐車場をあそび場所として利用できることからみてもあそび場所が多く、よく戸外であそんでいるので帰宅時間も遅い。また、あそび相手も友達が多く、あそび仲間についてはいつもだいたい決まっているようである。

・間接環境について（表-2）

表-2 間接環境（居住地域別の比較）（%）

| 項目 | | 居住地域 | | |
|--------------|-------|------|----|----|
| | | A | B | C |
| 祖父母と同居している | | 22 | 12 | 24 |
| 兄弟・姉妹の数 | 1人 | 17 | 16 | 11 |
| | 2人 | 58 | 64 | 56 |
| | 3人以上 | 25 | 19 | 33 |
| 起床時間 | 7時以前 | 67 | 81 | 94 |
| | 8時以降 | 32 | 16 | 5 |
| 就寝時間 | 8時だい | 14 | 27 | 18 |
| | 9時だい | 54 | 55 | 67 |
| | 10時以降 | 32 | 17 | 14 |
| テレビ視聴時間の制限あり | | 30 | 35 | 23 |
| 習い事をしている | | 57 | 75 | 53 |
| 習い事の数 | 1種類 | 59 | 39 | 66 |
| | 2種類 | 30 | 36 | 26 |
| | 3種類以上 | 9 | 20 | 7 |
| 習い事の回数/週 | 1回 | 53 | 33 | 51 |
| | 2回 | 30 | 29 | 34 |
| | 3回 | 13 | 24 | 10 |
| | 4回以上 | 5 | 13 | 5 |
| 体の調査項目の異常あり | | 69 | 67 | 61 |

子どもの活動的なあそびを好むという本質は変わらないが、これには地域のあそび環境が大きく影響していると考えられるので、この項では居住地域を中心にまとめてみた。

A地域は遅く寝て起きるのも遅い（宵っぱりの朝寝坊）。その他の項目はBとCの中間型である。B地域は習い事をしている者が多いのが特徴で、一週間に3回以上習い事に時間を費やしている者が37%ある。C地域は兄弟・姉妹は3人以上が33%と比較的多い。また、早起型でテレビ視聴時間の制限は緩やかである。最後に子どもの体の調査については地域間では差がみられなかった。

4. 結論

性、年齢、地域に関わりなく75%が、活動的なあそびを好む・まあまあ好むと回答している。しかし、この75%が戸外であそんでいるのかというと、戸外あそびが多い・やや多いを合わせても33%との回答しか得られない。このように、活動的なあそびを好むことと戸外でよくあそぶことは必ずしも一致していない。この隔たりはどこにあるのだろうか。これに影響を与える要因の一つにあそび環境がある。本調査では、その中でも居住地域における条件が最も影響をおよぼすことがわかった。三地域の中で最も活動的にあそんでいるのは中小都市周辺部地域(C地域)である。戸外であそんでいる割合が高い、それも長時間戸外であそんでいる。また、あそび相手も他の地域より同年齢・異年齢の友達とあそんでいる。この背景には次のような環境が影響をおよぼしているものと思われる。それは、交通量とあそび仲間である。C地域は他の地域に比べきわめて交通量が少なく、あそび仲間も多い。交通量が少ないということは近所の子ども同志安心して行き来できるので、仲間の輪を広げるのが容易になる。このことによって、あそびも活動的になり友達との関わりもより多くなっていく。このように自宅の周囲の道路等があそび場となり、大人の目の届く範囲で安心してあそばせることができる環境が、子どものあそびを助長する一要因と考えられる。しかし、このような環境は容易に手に入らない。それでは、友達とあそぶ場所がない場合はどのように対処すればよいのであろう。今回の調査では習い事と戸外あそびとの関連はみられなかったが、習い事の動機・目的から習い事があそび場を提供する機会として、大人(親)の期待が感じられた。今後は、習い事に限らず、このような場を人為的に作り出す必要があるのではなかろうか。

(本論文は第50回日本保育学会における発表に加筆したものである。なお、本研究にあたり夙川学院短期大学特別研究助成金を受けたことに感謝の意を表すとともにその研究の一部を報告させていただく。)

*本論文(2)に対する(1)の論文は1983年12月発刊の本学研究紀要第8号に「子どものあそび

環境について」というテーマで発表したものである。この(2)は(1)と同様の内容で調査を行ったもので、この二つの調査間には、同様の傾向を示した項目や差異が生じた項目があり、次回にこれらを比較検討して発表する予定である。

引用文献

- 1 三笠友紀恵、金築優子、久本信子、「子どものあそび環境について」、『夙川学院短期大学研究紀要』、第8号、1983年、3 - 4ページ

参考文献

- 辻井正 他 『遊びが育てる子どもの心』 PHP研究所 1996年
石崎朝世 『友達ができにくい子どもたち』 すずき出版 1996年
秋葉英則 他 『幼児とあそび』理論と実際 労働旬報社 1994年
河合雅雄 『子どもと自然』岩波新書113 岩波書店 1995年
深谷昌志 『孤立化する子どもたち』NHKブックス436 日本放送出版協会 1991年
佐野勝徳 『子育て・子育て・生活リズム』 エイデル研究所 1993年
須藤敏昭 『現代っ子の遊びと生活』 青木書店 1991年